

神奈川県における精神障害者バレーボール大会の10年

いとう ひでゆき
伊 東 秀 幸

〈要 旨〉

1999(平成11)年、日本精神保健福祉連盟に「障害者スポーツ推進委員会」が設置され、その成果として宮城県(仙台市)において、2001(平成13)年9月に第1回全国精神障害者バレーボール大会が開催された。平成14年度には、高知県で実施された第2回全国障害者スポーツ大会のオープン競技として精神障害者バレーボールが競技種目として採用され、「全国精神障害者スポーツ大会」と名称を変更して実施された。その大会に向けてブロック大会の実施が必要となり、全国で準備が進んでいく中、東京・神奈川ブロック大会の第1回大会は神奈川県で実施することとなり、実行委員会方式で運営を行った。

実行委員会方式で実施することは、神奈川県内の精神保健福祉関係団体・機関が、同一の目的に向かって協働することである。バレーボール大会は、全ての団体・機関にとって好ましい行事であり、その達成を目標に関係団体等の関係性が強まっていくという利点がある。反面、実行組織としては脆弱であり、継続性や発展性を確保することが課題で、適正な役割分担と世代交代を意図的に図っていかないと大会そのものの実施が危うくなってしまふ。さらに財政的な問題は大きく、現在は安定的な資金の確保ができない状況である。

平成17年度から平成24年度まで8回実施されている神奈川県大会では、平均19.7チームが参加しており、その数は大きな変化はなく推移している。しかし、川崎市、相模原市の2政令指定都市の参加チームが少なく、平成23・24年度については川崎市のチームは参加なしという事態となった。また、チームの母体について見てみると精神科医療機関のデイケアを母体としているチームが約6割で、残りの4割が、障害者自立支援法以前は地域作業所であった福祉事業所を母体としている。この比率についても大きな変化なく推移している。

今後の発展を考えると事務局体制や財政基盤の確立が必要であり、参加チームの増加を目的に啓発普及的なアプローチが必要である。

〈キーワード〉

精神障害者スポーツ 障害者スポーツ バレーボール大会

I はじめに

2012年はロンドンでオリンピックが開催され、オリンピック後に開催されたパラリンピックにおいてもオリンピック同様に日本人選手の活躍が目立ったことは記憶に新しい。パラリンピックは、身体障害者と知的障害者を対象とした大会であり、精神障害者の参加については認められていないのが現状である。

国内に目を転じると、国民体育大会と連動して実施される全国障害者スポーツ大会においては3障害を対象としており、精神障害者バレーボールが正式種目となっている。ただ、第1回大会から精神障害者が対象とされていたわけではなかった。

平成5年、障害者基本法が成立し、精神障害者も障害者として法的に認知された。しかし、それ以前は医療や保健の対象とされてきた精神障害者は、福祉領域のさまざまな面で身体障害者、知的障害者に後れていたが、障害者スポーツでも同様であった。そのような中で、日本精神保健福祉連盟(以下、連盟)¹⁾の障害者スポーツ推進委員会の活動によって、精神障害者バレーボールが全国的に展開され、全国障害者スポーツ大会の正式種目化につながっていった。そのことは、精神保健福祉及び障害者スポーツの領域にとって歴史的な事柄であると見ることができる。

そこで本論では、神奈川県において開催されてきた精神障害者バレーボール大会を中心にこれまでの経過を概観するとともに今後の展開について考察する。

II 精神障害者バレーボール大会の経過

1 精神障害者バレーボール大会の誕生

1999(平成11)年、日本精神保健福祉連盟に精神障害者スポーツ推進に関する研究・実践活動を目的とした「障害者スポーツ推進委員会」(以下、推進委員会)が設置された。これは、精神障害者スポーツが、身体障害者や知的障害者のそれに比べて低調である状況を改善していく意味が込められていた。

推進委員会では、平成11年度に都道府県及び政令指定都市を対象として、都道府県レベル、保健所レベル、市町村レベルでの平成10年度に実施されたスポーツ大会の現状を把握する目的でアンケート調査(全国調査)を実施した。この調査によって、各都道府県でさまざまな種目のスポーツ大会が、これまでも実施されていたことが把握できた。²⁾

平成12年度は、推進委員会を中心に精神障害者の全国レベルでのスポーツ大会実施に向けた準備が進められ、平成13年度の全国大会実施へとつながっていった。

平成13年度に宮城県で第1回障害者スポーツ大会が実施されたが、これは身体障害者と知的障害者が合同で実施する初めての全国規模のスポーツ大会であった。また、こ

の大会は、国民体育大会の実施都道府県で実施されるという開催の形式が、オリンピックとパラリンピックとの関係と同じという点が障害者スポーツの啓発等から意味があるといえた。

第1回全国障害者スポーツ大会が実施された宮城県(仙台市)において、2001(平成13)年9月に第1回全国精神障害者バレーボール大会が開催された。大会参加チームの呼び掛けに対して地元東北地方の県とバレーボール大会を実施してきた東京都などが参加する形となった。この大会は、北海道、青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県、東京都、高知県、沖縄県からの13チームの参加であったが、我が国における初めての精神障害者を対象とした全国レベルでのスポーツ大会であったと考えられる。因みにこの大会の優勝は、秋田県チームであった。

この大会の開催にあたっては、これまで東京都で実施されてきたバレーボール大会を参考にした。東京都では、東京都中部総合精神保健福祉センターがバレーボール大会を実施していたが、その後センターの手を離れ、作業所の連絡会が主催して現在まで実施されている。

平成14年度は、高知県で実施された第2回全国障害者スポーツ大会のオープン競技として精神障害者バレーボールが競技種目として採用され、「全国精神障害者スポーツ大会」と名称を変更して実施された。また、全国大会実施に伴って参加チームの選考のためのブロック大会が実施されることになり、精神障害者バレーボール大会独自に全国を8ブロックに設定した。

表1-1「8ブロック」

ブロック	都道府県
北海道・東北ブロック	北海道
	青森
	秋田
	岩手
	宮城
	山形
	福島
北信越ブロック	新潟
	石川
	富山
	福井
関東ブロック	長野
	茨城
	栃木
	群馬
	埼玉
東京・神奈川ブロック	千葉
	東京
中部ブロック	神奈川
	静岡
	愛知
	三重
	岐阜
	山梨

ブロック	都道府県
近畿ブロック	滋賀
	京都
	奈良
	和歌山
	大阪
	兵庫
中国・四国ブロック	高知
	愛媛
	香川
	徳島
	岡山
	広島
	山口
九州・沖縄ブロック	鳥取
	島根
	福岡
	佐賀
	大分
	長崎
	熊本
	宮崎
鹿児島	
沖縄	

2 精神障害者バレーボールの正式種目化

平成 18 年度に開催された大分大会から精神障害者のバレーボールが正式種目として採用されることになった。その背景には、推進委員会や日本精神保健福祉連盟の努力があったといえる。

正式種目になったことで、各チームは都道府県の代表してユニフォームが支給されるなど経済的な支援を受けることができるようになった。また、正式種目化に伴いこれまでの 8 ブロックで実施されていたブロック大会を知的障害者スポーツのブロック分け等を参考に 6 ブロックに変更された。

表1-2 「6ブロック」

ブロック	都道府県市	ブロック	都道府県市	
北海道・東北ブロック	北海道	近畿ブロック	滋賀	
	青森		京都	
	秋田		奈良	
	岩手		和歌山	
	宮城		大阪	
	山形		兵庫	
	福島		京都市	
	札幌市		大阪市	
	仙台市		堺市	
	北信越・東海ブロック		新潟	中国・四国ブロック
石川		高知		
富山		愛媛		
福井		香川		
長野		徳島		
静岡		岡山		
愛知		広島		
三重		山口		
岐阜		鳥取		
名古屋市		島根		
新潟市		岡山市		
静岡市		広島市		
浜松市		九州・沖縄ブロック	福岡	
茨城			佐賀	
栃木	大分			
群馬	長崎			
埼玉	熊本			
千葉	宮崎			
東京	鹿児島			
神奈川	沖縄			
さいたま市	福岡市			
千葉市	北九州市			
横浜市	熊本市			
川崎市				
相模原市				

これまで平成 14 年度のオープン競技から平成 24 年度まで 11 大会で精神障害者バレーボールが実施されてきた。平成 24 年度は岐阜県において第 12 回全国障害者スポーツ大会「ぎふ清流大会」が 10 月 13 日から 15 日まで開催され、バレーボール競技(精神障害者部門)において横浜市の代表である「チームさいとう」が全国優勝を果たした。これまでも全国大会では横浜市、神奈川県が、3 回の優勝 3 回の 3 位入賞をしている。

現在、全国大会参加にむけては、概ねつぎのような流れで進められている。各都道府県大会が前年度に実施されブロック大会の参加チームを決定し、全国大会の実施年度にブロック大会が実施され全国大会の代表が決められる。なお、正式種目となる前は、ブロック大会も前年度に実施していた。その関係から、平成19年度のブロック大会は調整のため実施されていない。

表2 全国大会・ブロック大会 実施一覧

日本精神保健福祉連盟作成

	平成14年度第2回大会	平成15年度第3回大会	平成16年度第4回大会	平成17年度第5回大会	平成18年度第6回大会	平成19年度第7回大会	平成20年度第8回大会	平成21年度第9回大会	平成22年度第10回大会	平成23年度第11回大会	平成24年度第12回大会	平成25年度第13回大会	平成26年度第14回大会	平成27年度第15回大会
年月日	2002.11.10	2003.11.9	2004.11.14	2005.11.6	2006.10.14-15	2007.10.13-14	2008.10.11-13	2009.10.10-12	2010.10.23-25	2011.10.22-24	2012.10.13-15	2013.10.12-14	2014.11.1-3	2015.10.24-26
位置づけ	オープン競技	オープン競技	オープン競技	オープン競技	オープン競技	オープン競技	正式競技	正式競技	正式競技	正式競技	正式競技	正式競技	正式競技	正式競技
種目	団体バレーボール	団体バレーボール	団体バレーボール	団体バレーボール	団体バレーボール	団体バレーボール	団体バレーボール	団体バレーボール	団体バレーボール	団体バレーボール	団体バレーボール	団体バレーボール	団体バレーボール	団体バレーボール
開催地	高知県	静岡県	埼玉県	岡山県	兵庫県	秋田県	大分県	新潟県	千葉県	山口県	岐阜県	東京都	長崎県	和歌山県
優勝	静岡県	高知県	高知県	高知県	神奈川県	高知県	高知県	高知県	横浜市	埼玉県	横浜市			
準優勝	高知県	東京都	埼玉県	静岡県	高知県	青森県	大阪府	静岡県	大阪府	浜松市	京都市			
3位	東京都	長野県	神奈川県	岡山県	佐賀県	神奈川県	青森県	横浜市	浜松市	岡山県	浜松市			
参加都道府県・指定都市	12	12	12	11	12	11	7	8	8	7	7			
チーム数	14	13	12	12	12	12	7	8	8	7	7			

ブロック大会

	平成14年度実施ブロック大会	平成15年度全大会出場選考	平成16年度実施ブロック大会	平成17年度全大会出場選考	平成18年度実施ブロック大会	平成19年度全大会出場選考	平成20年度実施ブロック大会	平成21年度全大会出場選考	平成22年度実施ブロック大会	平成23年度全大会出場選考	平成24年度実施ブロック大会	平成25年度全大会出場選考	平成26年度実施ブロック大会	平成27年度全大会出場選考
北海道東北ブロック	開催地 岩手県 優勝 福島県	秋田県	福島県	山形県	青森県	青森県	宮城県	岩手県	秋田県	青森県	山形県	青森県		
関東ブロック	開催地 千葉県 優勝 千葉県	千葉県	埼玉県	栃木県	茨城県		東京都	群馬県	千葉県	埼玉県	茨城県	東京都		
東京神奈川ブロック	開催地 神奈川県 優勝 東京都	東京都	神奈川県	東京都	神奈川県	神奈川県	東京都	埼玉県	横浜市	横浜市	埼玉県	横浜市		
北信越ブロック	開催地 長野県 優勝 長野県	石川県	長野県	石川県	新潟県		静岡県	新潟県	新潟県	岐阜県	岐阜県	(未定)		
中部ブロック	開催地 山梨県 優勝 山梨県	静岡県	三重県	愛知県	山梨県		長野県	静岡県	浜松市	浜松市	浜松市			
近畿ブロック	開催地 京都府 優勝 大阪府	和歌山県	兵庫県	大阪府	滋賀県		奈良県	京都府	京都市	大阪市	神戸市	堺市		
中国四国ブロック	開催地 高知県 優勝 高知県	鳥取県	高知県	広島市	徳島県		山口県	愛媛県	岡山県	山口県	島根県	香川県		
九州ブロック	開催地 佐賀県 優勝 佐賀県	北九州市	福岡市	大分県	大分県		大分県	宮崎県	福岡市	熊本県	沖縄県	(未定)		
							佐賀県	佐賀県	福岡県	佐賀県	佐賀県			

Ⅲ 神奈川県における精神障害者バレーボール大会の誕生と経過

1 神奈川県大会の誕生

平成14年度、高知県で開催される全国精神障害者スポーツ大会に向けてブロック大会の実施が必要となり、全国で準備が進んでいた。そのような中で推進委員会に神奈川県に現場を持つ委員が2名参加していたことから、東京・神奈川ブロック大会の第1回大会を神奈川県で実施することとなった。³⁾

筆者らは、大会の実施にあたって運営団体を探すことから始めた。他ブロックの状況では、精神保健福祉センターが運営の中心的な役割を担っているところが多いことから、神奈川県の場合も神奈川県精神保健福祉センターに打診を行った。ところが、当時精神科救急事業を展開するために救急情報課が精神保健福祉センターの中に立ちあがることなどから、ブロック大会運営を中心的に担っていくことは難しいとのニュアンスであった。

そこで、神奈川県内の関係団体に打診を行った。これまで全県的にバレーボール大会を実施してきた精神科デイケア連絡会に当たったが、難しいとの回答であった。さらに神奈川県精神障害者生活支援団体連合会(県精連)に打診したが、県精連ではこれまでソフトボール大会を実施していることから、スポーツ大会をさらに担うことは難しいとの見解であった。

そのようなことから、神奈川県内の精神保健福祉領域の関係団体によって神奈川県精神障害者スポーツ大会実行委員会を組織し、東京・神奈川ブロック大会及びブロック大会への進出チームを選抜する「精神障害者神奈川バレーボール大会」(以下、神奈川県大会)を開催することになった。以来これまで、実行委員会によって大会を運営してきた。

表3 神奈川県精神障害者スポーツ大会実行委員会

神奈川県精神障害者連絡協議会	神奈川県作業療法士会
神奈川県精神障害者家族会連合会	神奈川デイケア連絡会
神奈川県精神保健ボランティア連絡協議会	神奈川県障害者社会参加推進センター
神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会	神奈川県障害福祉課
横浜市精神障害者地域生活支援連合会	神奈川県精神保健福祉センター
川崎市精神障害者地域生活推進連合会	横浜市障害福祉課
神奈川県精神科病院協会	川崎市精神保健福祉課
神奈川県精神科・神経科診療所協会	川崎市精神保健福祉センター
日本精神科看護技術協会 神奈川県支部	相模原市障害福祉課
神奈川県精神保健福祉士協会	日本精神保健福祉連盟障害者スポーツ推進委員会

2 神奈川県大会の経過

平成14年度から平成16年度までは、東京・神奈川ブロック大会と神奈川県大会を同時開催した。第1回東京・神奈川ブロック大会は平成15年2月19日に、東京の6チームと神奈川の4チームによって、大和スポーツセンターにおいて開催された。神奈川県内のチーム同士で対戦するところが神奈川県大会で、そこを勝ち上がったチームが東京都代表のチームと対戦する部分をブロック大会と位置付けた。なお、東京・神奈川ブロック大会は、隔年ごとに東京と神奈川が交替で運営していった。

表4 平成14年度東京・神奈川ブロック大会 平成15年2月19日

	東京		神奈川	
	チーム名	区分	チーム名	区分
1	トリンプルボギー	地域	エンジェルス	医療
2	あとリエふぁんとむ	地域	スカイブルー	地域
3	すずしろコミュニティ	地域	ふれあい	地域
4	アゲイン	地域	川崎リハ ファイヤーズ	地域
5	T&E企画	地域		
6	ほっとスペース	地域		

平成18年度の正式種目化にむけてブロック大会におけるブロックの区分けの変更や政令指定都市の代表を選出する必要などから、17年度にはじめて純粋な神奈川県大会を実施することになった。神奈川県大会では、政令指定都市である横浜市、川崎市の代表とそれ以外の県内の地域(県域)の代表チーム、計3チームの選抜を行うこととなった。なお、平成19年度に相模原市が政令指定都市となったことから相模原市の代表チームもブロック大会に進出することになり、神奈川県大会は3政令指定都市と県域のチームを選抜する大会となった。

表5-1 平成17年度 神奈川県大会 平成17年11月11日

	横浜市		川崎市		県域	
	チーム名	区分	チーム名	区分	チーム名	区分
1	石川町クリニックデイケア	医療	武田病院DC	医療	ジャンボオムレツ	医療
2	チームさいとう	医療			EACミラクルズ	医療
3	ガッツ丘の上	医療			藤沢ファイターズ	医療
4	スペース杉田	地域			平塚エンジェルス	医療
5	パステル	地域			サテライツ	医療
6	ネバーランド青葉	地域			大和病院デイケアA	医療
7					大和病院デイケアB	医療
8					大和病院デイケアC	医療
9					ZAPZAP	地域
10					スカイブルー	地域
11					湘南'S12	地域
12					T・Fわーくあーつ	地域
13					3作業所合同チーム	地域
14					ひまわりファイヤーズ	地域

表5-2 平成18年度神奈川県大会

平成18年9月8日

	横浜市		川崎市		県域	
	チーム名	区分	チーム名	区分	チーム名	区分
1	タロ吉	医療	武田Twelve	医療	サテライツ	医療
2	舞岡ファイターズ	医療	川崎市精連チーム	地域	藤沢ファイターズ	医療
3	チームさいとう	医療			平塚エンジェルス	医療
4	いけいけ丘の上!	医療			ガンダーラ	医療
5	レックス・フェニックス	地域			SKY BLUE	医療
6	パステル	地域			沁入メンタルクリニックケア	医療
7	ネバーランド青葉	地域			大和さんがんばって	医療
8					戦艦大和	医療
9					グリーンホーム	地域
10					ひまわりファイヤーズ	地域
11					湘南かたくりファイターズ	地域
12					ほのぼのスターズ	地域
13					トライフィールドわくあつ	地域
14					スカイブルー	地域
15					フレッシュ12	地域

表5-3 平成19年度神奈川県大会

平成19年9月7日

	横浜市		川崎市		県域	
	チーム名	区分	チーム名	区分	チーム名	区分
1	チームさいとう	医療	風林火山	医療	藤沢ファイターズ	医療
2	サマータイム	医療	風神雷神	医療	サテライト・エンジェルス	医療
3	石川町フェニックス	医療			グリーンドルフィンズ	地域
4	ファイターズ丘の上	医療			ひまわりファイヤーズ	地域
5	舞岡ファイターズ	医療			ほのぼのスターズ	地域
6	スペース杉田	地域			トライフィールドわくあつ	地域
7					スカイブルー	地域
8					チームKATO	地域
9					湘南かたくりファイターズ	地域

表5-4 平成20年度神奈川県大会

平成20年11月25日

	横浜市		川崎市		県域	
	チーム名	区分	チーム名	区分	チーム名	区分
1	チームさいとう	医療	風林火山	医療	湘南オールスターズ	医療
2	クラブラガー	医療	篤姫	医療	アーセイ厚生ファイターズ	医療
3	横浜相原病院デイケア	医療	もっちーとその仲間達	地域	相模台クリニック	医療
4	さわやか	医療			BIRTH	医療
5	チーム石川町	医療			大和より愛を込めて	医療
6	ファイターズ緑	地域			グリーンドルフィンズ	地域
7	スペース杉田	地域			ひまわりファイヤーズ	地域
8	ネバーランド青葉	地域			ほのぼのスターズ	地域
9					チームKATO	地域

表5-5 平成21年度神奈川県大会

平成21年9月8日

	横浜市		川崎市		県域		相模原市	
	チーム名	区分	チーム名	区分	チーム名	区分	チーム名	区分
1	チームさいとう	医療	風林火山	医療	アーセイ厚生ファイターズ	医療	ほのぼのスターズ	地域
2	ラガー魂	医療			V11(ブイイレブン)	医療	グリーンドルフィンズ	地域
3	相原レインボーズ	医療			大和JAPAN	医療		
4	WEST WELLL	医療			湘南オーシャンズ	医療		
5	TEAM 石川町	医療			LET'S GO湘南台	医療		
6	ファイト丘の上	医療			ひまわりファイヤーズII	地域		
7	舞岡ファイターズ	医療			チームKATO	地域		
8	ファイターズ緑	地域						
9	スペース杉田	地域						
10	ネバーランド青葉	地域						

表5-6 平成22年度神奈川県大会

平成22年9月17日

	横浜市		川崎市		県域		相模原市	
	チーム名	区分	チーム名	区分	チーム名	区分	チーム名	区分
1	チームさいとう	医療	風林火山	医療	アーセイ厚生ファイターズ	医療	ほのぼのスターズ	地域
2	相原レインボーズ	医療			湘南オーシャンズ	医療	グリーンドルフィンズ	地域
3	舞岡ファイターズ	医療			湘南エンジェルス	医療		
4	ラガーさん	医療			LET'S GO湘南台	医療		
5	天元突破	医療			負けるもんか	医療		
6	丘の上オールスターズ	医療			大和魂	医療		
7	ファイターズ緑	地域			トライフィールドわくあつ	地域		
8	スペース杉田	地域			ひまわりファイヤーズ	地域		
9	ネバーランド青葉	地域			チームKATO	地域		
10					スカイブルー	地域		

表5-7 平成23年度神奈川県大会

平成23年9月30日

	横浜市		川崎市		県域		相模原市	
	チーム名	区分	チーム名	区分	チーム名	区分	チーム名	区分
1	チームさいとう	医療			アーセイ厚生ファイターズ	医療	相模ヶ丘病院デイケア	医療
2	相原レインボーズ	医療			湘南オーシャンズ	医療	ほのぼのスターズ	地域
3	スカイラガー	医療			AMI⇒GO	医療	グリーンドルフィンズ	地域
4	天元突破石川町	医療			Yes we can	医療		
5	GO 丘の上	医療			トライフィールドわくあつ	地域		
6	Freedom 2011	医療			ひまわりファイヤーズ	地域		
7	スペース杉田	地域			ブルーファクトリー	地域		
8	ネバーランド青葉	地域						

表5-8 平成24年度神奈川県大会

平成24年9月28日

	横浜市		川崎市		県域		相模原市	
	チーム名	区分	チーム名	区分	チーム名	区分	チーム名	区分
1	チームさいとう	医療			アーセイ厚生ファイターズ	医療	相模ヶ丘病院デイケア	医療
2	相原レインボーズ	医療			湘南オーシャンズ	医療	ほのぼのスターズ	地域
3	Freedom 2011	医療			チームワンダフル	医療		
4	ラガー丸	医療			ひまわりファイヤーズ	地域		
5	丘の上 Japan	医療			ブルーファクトリー	地域		
6	ネバーランド青葉	地域			スカイブルー	地域		
7					レインボー	地域		
8					Cafe すばる	地域		

IV 神奈川県における精神障害者バレーボール大会の現状

1 大会の運営

大会の運営は実行委員会形式で続けてきたが、準備段階では主なメンバーが中心に担ってきた。総務的役割を県精連事務局の石井氏が担当し、会場となる大和体育センターへの申し込み、交渉は家族会の星野氏、競技委員長をはじめ競技全般については、推進委員会の委員でもある北里大学東病院の白木原氏が担当してきた。

さらに参加賞を大塚製菓等企業から提供してもらっているが、その交渉を神奈川県精神科病院協会の大野先生が担当し、当日の救護班を担当する看護師の派遣を日本精神科看護技術協会神奈川県支部に依頼している。

当日は、実行委員会を組織している各団体から要員が参加して運営を行っているが、特に審判については神奈川県ソフトバレーボール連盟に依頼して、毎回12名の審判員を派遣してもらっている。当日のボランティアとしては、国際保健医療大学、田園調布学園大学の学生や精神障害当事者、精神保健福祉センター等の元職員などが参加している。

さらに試合球を株式会社モルテンから提供してもらっている。試合球や参加賞を提供してもらっていることは、予算的に厳しい状況で運営していることから非常に助かっているといえる。

予算面では、ブロック大会の運営では連盟からの補助金に依存する部分が大きかったが、県大会の実施については独自に予算を獲得していかなければならなくなった。当時、神奈川県体育協会の補助金を受けることができたことによって、財政面が助かったといえる。これは、神奈川県が国民体育大会を開催したことを契機にスポーツ振興を目的に各スポーツ団体への補助金制度が10年間という期限付きで設立されたものである。

しかし、そのような補助金が終了してしまうと、大会実施に向けた資金の確保が厳しい状況となっていった。現状では、参加チームからの参加費と神奈川県精神科病院協会、神奈川県障害者スポーツ振興協議会及び横浜市からの補助金が資金源となっている。さらに実行委員が全くの無報酬で参加していることによって大会が運営出来ているといえる。

大会実施のお知らせ、参加申し込みの案内についても、郵送費を節約する目的から実行委員会を組織している団体、機関から周知してもらっている。

なお、平成24年度の精神障害者神奈川バレーボール大会実施要綱は、次の通りである。

1. 目的

本大会は、精神障害者のスポーツを振興し、障害に対する社会的理解を一層深めることにより、精神障害者の社会参加を促進することを目的に開催する。な

お、本大会は第13回全国障害者スポーツ大会「スポーツ祭東京2013大会」の予選会である関東ブロック大会への代表選考大会を兼ねるものとする。

2. 主催

社団法人 日本精神保健福祉連盟

3. 主管

神奈川精神障害者スポーツ大会実行委員会

4. 協力

神奈川県ソフトバレーボール連盟

神奈川県障害者スポーツ振興協議会

5. 協賛

株式会社モルテン

6. 期日

平成24年9月28日(金)午前9時から午後4時まで

7. 会場

大和スポーツセンター 第1体育室

8. 出場資格

(1) 平成25年4月1日現在、満13歳以上の者で、精神障害者手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある者。

(2) 申し込み時に参加する県・指定都市内に現住所を有する者。ただし、施設や学校等に入所及び通所並びに通学している者は、その所在地の県・指定都市でも参加できるものとする。

(3) 本大会で選抜されたチームは関東ブロック大会に出場し、さらにブロック大会でも優勝した時には、第13回全国障害者スポーツ大会「スポーツ祭東京2013大会」に出場することを了承すること。

9. チーム編成

チームは最大12名の競技者、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名で構成する。ただし、試合中は必ず女性選手が1名以上出場するものとする。また、選手の参加は1チームに限る。

10. 試合方法

(1) 6人制バレーボール国際競技規則にしたがっているが、会場、チーム編成などの都合上、特別の規則を設けることがある。

(2) 特別の規則、組み合わせ等は実行委員会で定めるものとする。

11. ブロック大会代表チームの選考について

本大会の成績は、全国障害者スポーツ大会関東ブロック大会への参加チームを

選抜するための参考とする。なお、ブロック大会には、神奈川県(横浜市・川崎市以外)、横浜市、川崎市のそれぞれが代表として参加する。

12. 参加費

1チーム 2,000円

13. 保険

主催者が加入する

14. 参加申し込み

所定の様式により郵送で申し込むこと。平成24年8月15日(水)必着とする。申込み先は、〒233-0006 横浜市港南区芹が谷2-5-2 神奈川県精神保健福祉センター内 神奈川精神障害者スポーツ大会実行委員会あて

15. キャプテン会議

平成24年9月10日(月)午後1時30分から、大和スポーツセンター会議室において、キャプテン会議を実施する。応募チームは、1名以上必ず参加しなければならない。(参加者はキャプテンでなくてもかまわない)

2 競技ルール

精神障害者バレーボールでは、6人制バレーボールのルールを基本としているが、ソフトバレーボールのボールを使用し、試合中常に女子1名以上参加していなければならないことが、大きな特徴といえる。

神奈川県大会では全国大会のルールを基本としているが、毎年大会1週間前に実施するキャプテン会議において検討し、神奈川県の特別ルールを作っている。なお、平成24年度の「神奈川県精神障害者バレーボール大会競技規則」は、次の通りである。

1. 競技規則

本競技規則は、6人制バレーボール国際競技規則に準拠する。ただし平成24年度全国障害者スポーツ大会(精神バレー)に関する競技規則の変更(社団法人日本精神保健福祉連盟)を適用するものとする。

*変更内容

- ・手のひらを上に広げてのアンダーハンドパスは認める→平成23年度から削除
- ・サービス後の攻守のポジションはフリーとする→平成23年度から削除
- ・リベロプレイヤーの登録は行わない→平成23年度から削除

2. チーム

- (1) 1チームは、最大12人の競技者、役員は3名以内とする。役員は監督・コー

チ・マネージャー各1名ずつで構成する。

- (2) 監督及びコーチが選手を兼ねる場合は必ず選手登録をすること。この場合の選手人数は、選手を兼ねる監督及びコーチを含め12名以内とする。
- (3) 競技者のユニフォームにつける番号は、1から12までとする。キャプテンは胸部及び腹部のナンバーの下に横線マークをつけること。

3. 競技方法

- (1) 試合はワンポールシステムで行う。
- (2) ネットの高さは、2m 24cmとする。
- (3) ボールは、円周 78 ± 1 cm、重量 210 ± 10 gの(財)日本バレーボール協会制定のソフトバレーボールを使用する。なお、色については規定しない。
- (4) 選手構成は男女混合とし、6名のうち常時女性が1名以上参加するものとする。女性選手が出場不可能となった場合には、その時点でゲームを修了とし不戦敗とする。
- (5) 試合形式は、トーナメント方式により行う。
- (6) 試合は3セットマッチで行うものとし、1セット25点のラリーポイント制とし、2セット先取したチームを勝ちとする。24対24の同点になった場合も25点で試合は打ち切れ、25点を先取したチームがそのセットの勝者となる。
- (7) 第3セットは、25点制で行い、コートの変更は、いずれかのチームが13点先取した時点で行う。
- (8) それぞれのチームには1セットにつき最大2回のタイムアウト(1回30秒)が認められる。

4. その他

- (1) 参加選手の健康・安全管理については、各チームにおいて十分配慮するものとする。傷害保険は主催者側で加入するが、応急処置を除いて一切の責任を負わないものとする。
- (2) 選手・役員以外の方のフロアー内への立ち入りは審判ならびに競技進行の妨げになる恐れがあるので、立ち入らないこと。
- (3) 原則として、申し込み締め切り後の選手等の記載事項の変更は認めない。ただし、病気等でやむを得ず選手変更する場合は、大会当日受付にて名簿を提出すること。

(平成24年度神奈川県大会特別規定)

決勝戦以外の試合では、1つのセットは、15点を取ったチームがそのセットの勝者となす。14対14の同点になった場合も15点で試合は打ち切れ、15点を先取したチームがそのセットの勝者となる。

V 考察

1 運営の問題

実行委員会方式で実施することは、神奈川県内の精神保健福祉関係団体・機関が、同一の目的に向かって協働することである。そのことにより、関係団体等の関係性が強まっていくという利点があると思われる。その際の目的であるバレーボール大会は、全ての団体・機関にとって好ましい行事であり、それぞれの団体間で利害関係が生じないテーマであるということが協働作業を容易にし、関係性の強化を促進するといえる。

反面、実行組織としては脆弱であり、継続性や発展性を確保することが課題となる部分である。適正な役割分担と世代交代を意図的に図っていかないと中心的に活動するメンバーの疲弊とともに大会そのものの実施が危うくなってしまいう現実が、常に横たわっているといえる。さらに財政的な問題は大きく、現在は安定的な資金の確保ができない状況であり、その点でも大会の継続性が危ぶまれる。

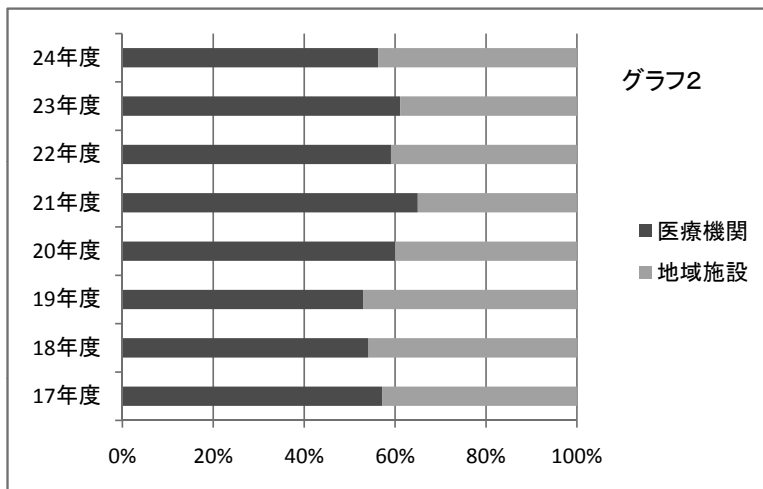
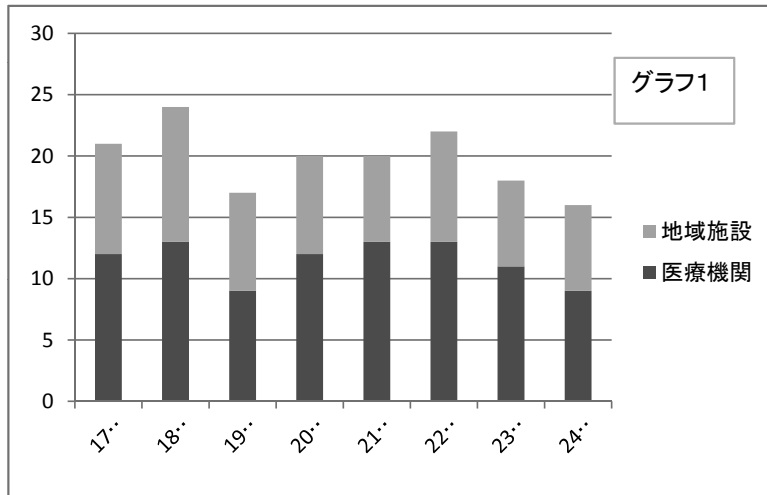
今後、大会を安定的に継続していくには、実行委員会形式であったとしても事務局の体制が整備されている必要がある。実行委員会に参加する関係団体のいずれかで事務局機能を担ってもらうことが理想であるだろう。また、財政的側面では経済状況はあるものの、企業等に寄付を募るような積極的な行動が必要であると思う。

2 参加チームの問題

平成 17 年度から平成 24 年度まで 8 回実施されている神奈川県大会では、平均 19.7 チームが参加しており、その数は大きな変化はなく推移している。しかし、川崎市、相模原市の 2 政令指定都市の参加チームが少なく、平成 23・24 年度については川崎市のチームは参加なしという事態となった。また、チームの母体について見てみると精神科医療機関のデイケアを母体としているチームが約 6 割で、残りの 4 割が、障害者自立支援法以前は地域作業所であった福祉事業所を母体としている。この比率についても大きな変化なく推移している。

表 6 神奈川県大会参加チームの推移

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	平均	%
医療機関	12	13	9	12	13	13	11	9	11.5	58.20%
地域施設	9	11	8	8	7	9	7	7	8.2	41.80%
合計	21	24	17	20	20	22	18	16	19.7	



そのような中で平成20年度から22年度までの3回の大会に参加した「ファイターズ緑」は、横浜市内にある地域生活支援センター⁴⁾の利用者が自主的に組織したチームであり、いわゆるクラブチームである。このような自主的なチームの誕生やチームの母体の多様化が望まれるところである。

さらに、デイケア連絡会や地域でのバレーボール大会が実施されているが、それらの参加チームが、本大会に参加しない状況が続いている。本大会が全国大会まで体系化された競技性の強いものであるのに対し、レクリエーション的な色彩の強い他の大会やそれぞれでルールの違いがあることなどから、双方の大会に壁ができてきているようである。⁵⁾

今後、参加チームの増加を図っていくためには、本大会が競技性を重視している面や参加チームの選手の自己効力感増進などを理解してもらうような取り組みをしていく必要があるだろう。

〈注〉

- 1) 日本精神保健福祉連盟は、昭和 28 年に日本精神衛生連盟として発足し、現在、日本精神科病院協会等精神保健福祉関係団体で構成された、精神保健福祉向上を目的とした団体である。
- 2) 日本精神保健福祉連盟広報誌No.29「精神障害者スポーツの現状と課題」、平成 15 年 9 月
- 3) 障害者スポーツ推進委員会の委員のうち、白木原市次(北里東病院)と伊東秀幸が神奈川県に職場を持っていた。
- 4) 横浜市では、市の条例で「地域生活支援センター」としているが、障害者自立支援法では、地域活動支援センター I 型にあたる。
- 5) デイケア連絡会のバレーボール大会では、革のボールを使った正式なバレーボールのルールで実施されている。

〈参考文献〉

- ・日本精神保健福祉連盟、「平成 13 年度精神障害者スポーツ事業研究報告書」、平成 14 年 3 月
- ・日本精神保健福祉連盟、「平成 14 年度精神障害者のスポーツ大会等開催支援事業報告書」、平成 15 年 3 月
- ・日本精神保健福祉連盟、「平成 15 年度精神障害者のスポーツ大会等開催支援事業報告書」、平成 16 年 3 月
- ・日本精神保健福祉連盟、「平成 16 年度精神障害者のスポーツ大会等開催支援事業報告書」、平成 17 年 3 月
- ・日本精神保健福祉連盟、「平成 17 年度精神障害者スポーツ(バレーボール)大会開催事業報告書」、平成 18 年 3 月
- ・日本精神保健福祉連盟、「平成 18 年度精神障害者スポーツ(バレーボール)大会開催事業報告書」、平成 19 年 3 月
- ・日本精神保健福祉連盟、「平成 19 年度精神障害者スポーツ(バレーボール)大会開催事業報告書」、平成 20 年 3 月
- ・日本精神保健福祉連盟、「平成 20 年度精神障害者スポーツ(バレーボール)大会開催事業報告書」、平成 21 年 3 月
- ・日本精神保健福祉連盟、「平成 21 年度精神障害者スポーツ(バレーボール)大会開催事業報告書」、平成 22 年 3 月
- ・日本精神保健福祉連盟、「平成 22 年度精神障害者スポーツ(バレーボール)大会開催事業報告書」平成 23 年 3 月
- ・日本精神保健福祉連盟、「平成 21 年度競技性を重視した精神障害者スポーツの啓発研究事業報告書」、平成 22 年 3 月